

Title: in⇄out



Lines of sight

～それぞれのアジアへの視線～



鈴木 和博
通山人間。受け流さない。受け止める！ちょっと衆面になって帰ってきたいです。

● 最近のエントリー

- ☑ [ロシア美人に会いたくて](#)
(2011.08.29)
- ☑ [あ、けっごう好きかも](#)
(2011.08.28)
- ☑ [あしあと](#)
(2011.08.24)
- ☑ [To three weeks that have not been seen yet](#)
(2011.08.23)

● アーカイブ

- ☑ 2011年09月
- ☑ 2011年08月
- ☑ 2011年07月
- ☑ 2011年06月
- ☑ 2011年05月
- ☑ 2011年04月
- ☑ 2011年03月

● 投稿カレンダー

● カテゴリー一覧

- ☑ インド
- ☑ カンボジア
- ☑ シンガポール
- ☑ タイ
- ☑ マバール
- ☑ フリー：中国
- ☑ ベトナム
- ☑ マレーシア
- ☑ 中国
- ☑ 台湾
- ☑ 日本
- ☑ 韓国

● ブックマーク

学校法人 日本写真芸術専門学校
NIPPON PHOTOGRAPHY INSTITUTE



rss 2.0

in⇄out > 2011年08月 アーカイブ

11.08.29

ロシア美人に会いたくて

[Tweet](#)

[Check](#)

厦門から飛行機で北京へ飛び、そこからバスで4時間。秦皇島市の北戴河という場所に来ています。こんにちは、若干風邪気味、鈴木です。



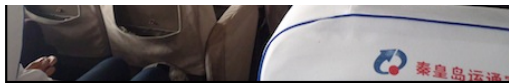
2008年の北京オリンピックで秦皇島はサッカー競技の開催場所となりました。それにもない北京首都国際空港と秦皇島を結ぶ高速バスが開通しました。片道4時間、130元。

ちなみに秦皇島は島なわけではありません。普通に陸続きの街です。そういう名前だけです。



またかな～またかな～





予定より少し早くバス到着。
出発。



でも道が遠んでで結果的に5時間かかって到着。
座ってるだけとはいえ疲れます。
移動のプランニングは余裕を持つ事をオススメします、ホントに。



バスは秦皇島に着いてしまうので目的の北戴河へはそこから少し戻らなければなりません。
タクシーで30分ほどかけてようやく北戴河に到着。
なぜが無駄にピカピカしてます。



ここは昔、中国に植民地を持つ外国人の為の避暑地として開発されました。
しかし、中国が植民地から解放されると主要な別荘は中国政府の所有となりました。
そして中国政府の要人が避暑に訪れ会議を開く政治的な側面の強い場所となりました。
この時、同じ社会主義であった当時のソビエト連邦関係者の避暑地としても開放されていたようです。

でもそれはあくまで昔の話。

今はまったく別の顔を持った街です。





現在の北極河は極東ロシア（正しい言い方が微妙ですけど）の人達が多く来る場所となっています。
同時に中国人が海水浴に来る場所でもあります。



そのため街には中国語とロシア語が併記されています。
レストランの人もロシア語で会話していました。



ビークこそ外していますが、それでも多くの人々が来ています。
中国人と同じくらいロシア人も見かけます。

本当にここは中国なのかと疑いたくなります。

ここに来てよかったのは、自分がロシアの事全然知らないんだなって気づけた事。
ロシアの通貨がルーブルってことも知りませんでした。

そういえば日本人でロシアに旅行行くってあんまりない気がします。
そもそもロシアはデカいので1回で行ける場所は限られますよね。

興味深いです、ロシア。
謎の多い国です、ロシア。



あ、これはなんかよくわからない絵です。
載せた意味は特にありません。



これ、泊まってるホテルのなんですけど・・・

「邪魔しないでください」

うん・・・間違ってる。
正しい日本語だね、むしろ他に当てはまる訳もないよね、うん。

でも、なんか卑猥な響きをするのはなんででしょうね・・・

・・・はい。
最後くだらなくてごめんなさい。

今日は北碚河景終日。
撮影陣集ります。

晴れろー晴れろー。

カテゴリ: [フリー:中国](#)

post by 鈴木 和博 | 日時: 2011.08.29 | [バナーリンク](#) | [コメント \(10\)](#) | [トラックバック \(0\)](#)

[in@out](#) > 2011年08月 アーカイブ

11.08.28

あ、けっこう好きかも

[Tweet](#)

[Check](#)

こんにちは、なぜか雨に降られる率が高い鈴木です。
アメオトコ？そんなことない！

FWもラストスタート、フリー期間に突入しております。
供は3週間全て中国での撮影です。

まずは1カ所目、厦門（アモイ）の様子をどーぞ。





中山路歩行街

広州の上下九路と似ています。
歩行者天国なので堂々と真ん中を歩けます。
でも日中はあつたのでみんな屋根がある部分しか歩けません。



相変わらず団体さんの勢いには圧倒されっぱなしです。

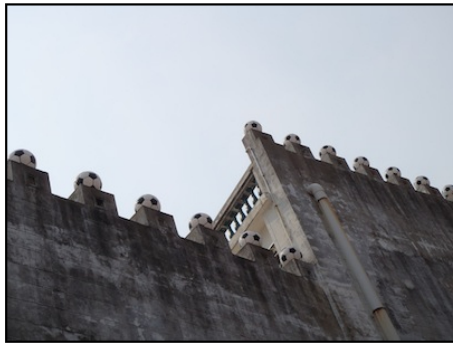


アモイはとてもおもしろいと思う街でした。
経済特区として早くから発展した都市ですが、1つ踏地に入ればそこは迷路のように入り組んだ生活空間が広がっています。

もっと時間をかけて見てみたい、そして撮ってみたい場所でした。
自分の撮影には少しヒントになる場所な気がしました・・・ほやっと感じただけで全然掘みきれずに終わってしまいましたが・・・

心を強くしてまた来たいです。





コロンス島

アモイを撮影地に選んだ理由は郊外にある福建土楼に行く事だったのですが、天気と滞在日数の関係で断念しました。
そのかわりアモイではコロンス島に遊びました。

アモイは1842年の南京条約（アヘン戦争の講和条約）によりいち早く開港させられた都市です。
その時コロンス島には多くの西洋人が住むようになりました。
当時の名残は島の至る所で見ることができます。

島内は自動車禁止なので散策は基本徒歩のみとなりますが、観光用のエコカーが巡回しているのでそれに乗る事で楽する事もできます。

コロンス島は別名ピアノの島。
植民地時代に中国で唯一ピアノがあったのが理由だそうです。
島には音楽学校があり、この学校からは有名なピアニストが多数輩出されているそうです。

あ、ちなみにアモイは中国で唯一（2011年現在）モスバーガーがあります！しかも4店舗！！
滞在中の僕の主食だった事は言うまでもありません。

ピバ、ジャンク生活。

post by 鈴木 和博 | 日時: 2011.08.28 | [カテゴリ: フリー: 中国](#) | [トラックバック: 中国](#) | [コメント \(4\)](#) | [トラックバック \(0\)](#)

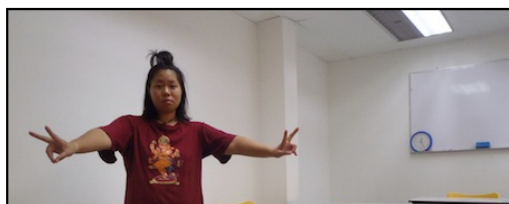
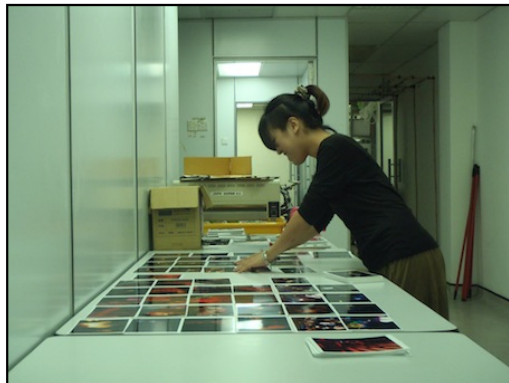
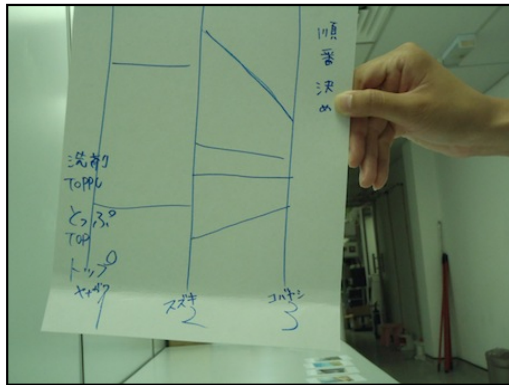
in@out > 2011年08月 アーカイブ

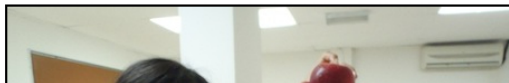
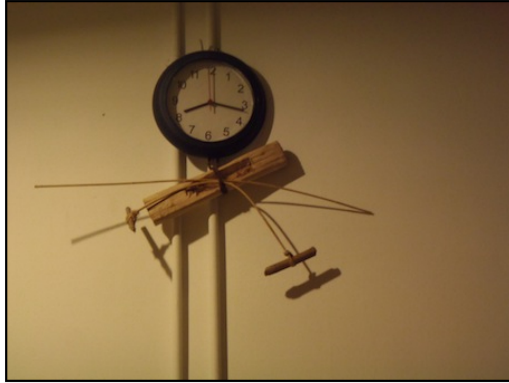
11.08.24

あしあと

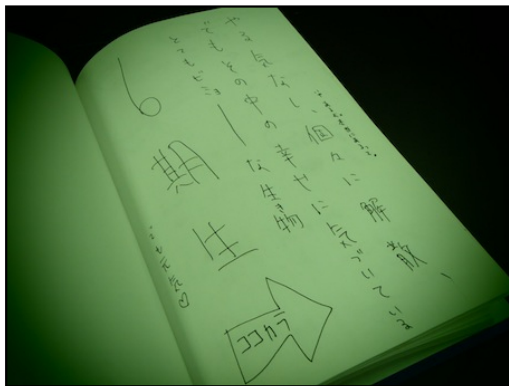
[Tweet](#)

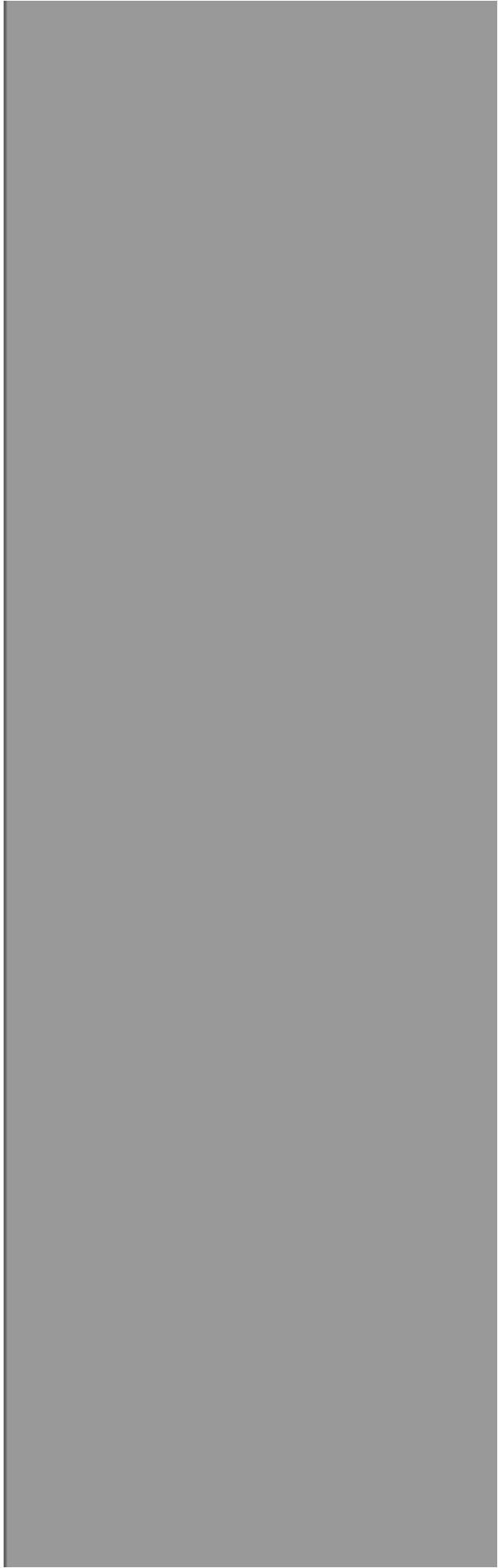
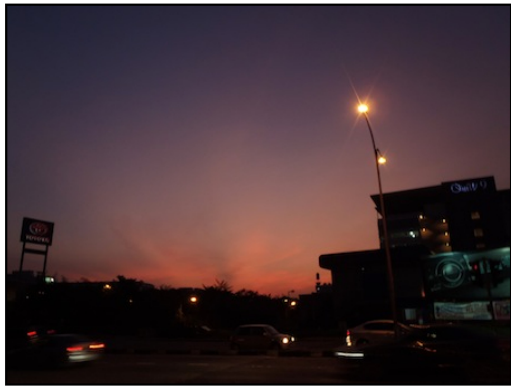
[Check](#)

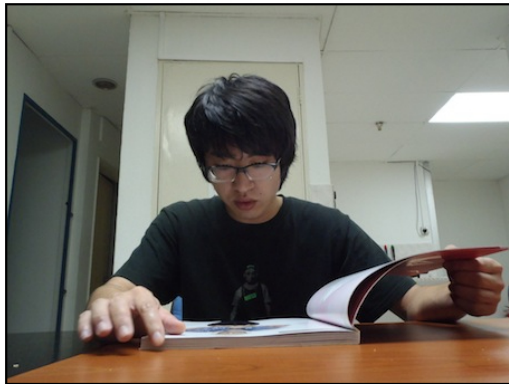


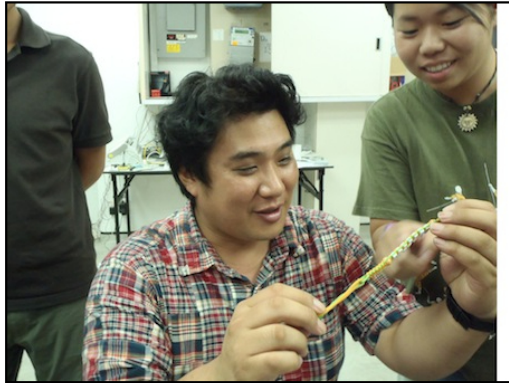
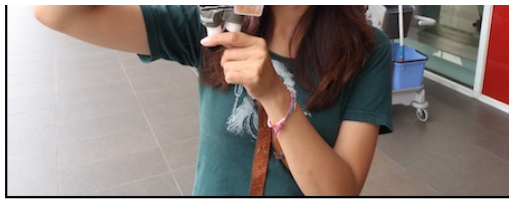












PMめっちゃ居心地良かったです。
短かったような長かったような不思議な時間だったけど、確かに僕らはここで過ごしたわけです。

思い出も大事ですよ！
せっかくカメラを手にしてるわけだし、残せる事は残しておきたいって思ったり・・・思ったり？
・・・ってことで、P2の様子をアップしてみましたー。

スクリーニングで言われた言葉は、自覚があるぶん余計に深く刺さりました。
スタートラインにすら立てていない自分は、これからやっとFWが始まるような気がします。
まずは残りの週間、中国でしっかり頑張ります。

やってみよう、そうしよう。

post by 鈴木 和博 | 日時: 2011.08.24 | [カテゴリ: エトピア](#)
[トラックバック](#) | [コメント\(6\)](#) | [トラックバック\(0\)](#)

in@out > 2011年08月 アーカイブ

11.08.23

To three weeks that have not been seen yet

[Tweet](#)

[Check](#)

8/21
フリー期間開始。

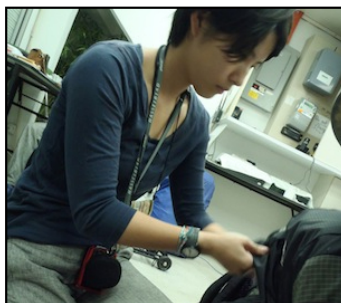
まだ夜も明けきらぬ5:45
堯さん、原さん、清水さんがタクシーで空港へ向かいました。

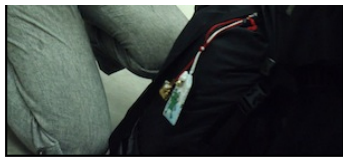


パッキングする原さん



清水さん





堤さん



見送りの為に起きてくれた徳田さん、朝から笑顔がステキです

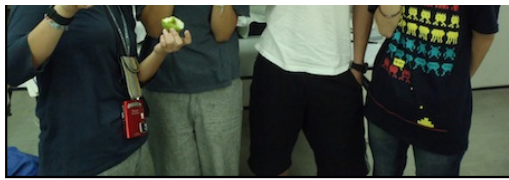


お金の整理をする清水さん



足跡帳にコメントを書く堤さん





穂積先輩、目が眠そう・・・



見送りに来てくれた梅先輩・穂積先輩と出発する堤さん・清水さん・原さん



行ってらっしゃい！

post by 鈴木 和博 | 日時: 2011.08.23 | [バナーリンク](#) | [コメント \(0\)](#) | [トラックバック \(0\)](#)

カテゴリ: [アジア](#)

[in@out](#) > 2011年08月 アーカイブ

11.08.22

あの雲を越えて

[Tweet](#)

[Check](#)

ラサ

雲に近い場所。

下手したら雲を越えてしまう場所。

普段は手が届かないのに、あっさりと越えてしまうなんて恐れ多い事です。



ポタラ宮
標高約3700m

白い部分（白宮）は主に政治的役割を
紅い部分（紅宮）は主に宗教的役割を持っています。

ダライ・ラマの亡命により主を失っているものの、今は観光地として多くの人の目に触れ
られています。

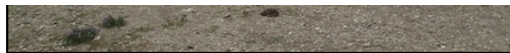
ラサエに入る為には入坑許可証というものが必要で、基本的にガイドとドライバーを付けた
ツアーの形式でないと訪問する事はできません。
ポタラ宮も観光時間はあらかじめ団体ごとに決められており、見学時間も1時間までと厳
しく決められています。

ポタラ宮は入場制限をしているにも拘らずたくさんの観光客でごった返しています。
内部の様さも手伝って前に進むだけで一苦労です。
宗教的芸術品が数多くあり、チベット仏教やラサエに興味がある人はとても楽しめる場所
です。



ヤムドク湖（4441m）





なんかこれドラクエっぽい・・・



ジョカン

チベット仏教で最も聖なる寺院。
五体投地で遠くからこの地を目指す信者もいるらしい。

バルコル（八角街）の中心にあり、辺りは土産物屋・観光客・巡礼者が温まり合った不思議な空間となっています。

ジョカンの創建には諸説あり・・・

一つは吐蕃王国のソンツェン・ガンボが、チベットの大地に落ちた羅刹女を倒す為、羅刹女の心願に当たる場所にあった湖を埋め、ジョカンを建てたという説。
もう一つがソンツェン・ガンボの死後2人の王妃が作った菩提寺だという説。
後者の方が現実的ですが、羅刹女伝説の絵がおもしろいので僕はこっちを支持します！

ソンツェン・ガンボはチベットを統一した人物、チベット仏教の起源となる人です。
2人の王妃というのは唐から嫁いだ文成公主とネパールから嫁いだティツン妃の事です。
彼女達はそれぞれ中国仏教とインド仏教をチベットにもたらしました。これにより彼は仏教に帰依するようになります。

2人の王妃はいわゆる和善公主。早い話が外交の為の政略結婚です。
その証典にソンツェン・ガンボにはチベット人の妃も3人います。

珍しい話ではなく、世界各国の歴史でよく見られる事です。
国が安定する為には近隣国と仲良くする事が最重要です。
その為の一手段として女性が利用されていた時代、というだけの事です。

もっと言えば、これは現代でもあり得ない話ではないと思います。



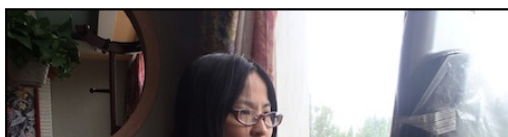
マニ車を回す信者たち

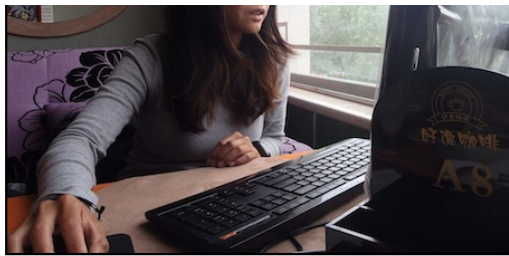


おしゃれな彝民族のカフェ



引き当てたご飯は相変わらず辛い
中国では辛いものを引く確率が高いです





このカフェ、なんと客席の各テーブルにパソコンが設置されているのです！
雑誌類も豊富でソファもふかふか！
不動産屋っこっをして楽しみました。



西藏博物館



ポタラ宮近くの市場

あまり観光客が来る感じの場所じゃありませんでしたが、そんなとこに首を突っ込むのがFV生です。
ニワトリが屠殺される様子も見ることができました。他にも虫が待機していたのでいずれ血肉となるのでしょう。
屠殺現場というのはあまり見る機会がありませんが、手際良く割られる様子はきれいですらあります。



野菜や香辛料も売られています。
市場はその国らしさが出ている気がしておもしろいです。





痛ろうとしたら雨・・・ではなく霰！
近くの船屋さんに避難させてもらおう事に。



雨・・・じゃなく霰音り中。
アイヤー、な表情の2人。

ラサでは高山病にならなかったけど、終始風邪気味でつらかったです。

アイヤー。

post by 鈴木 和博 | 日時: 2011.08.22 | [ホームリンク](#) | [コメント\(0\)](#) | [トラックバック\(0\)](#) カテゴリ: [中国](#)

[in@out](#) > 2011年08月 アーカイブ

11.08.02

語彙力が乏しいだけで可能性もあるけどね

[Tweet](#)

[Check](#)

こんにちは、鈴木です。
ラサでの日々も終わりを告げようとしています。
ラサは確かに自由旅行ができない場所だったけど、来てみてよかったと思える場所でした。

旅慣れてきたから心の反応が乏しいのか、
それとも元々感動が薄い人間なのか、
最近自分は後者な気がしています。

でも、物事はプラスに考えたいものです。
基本ネガティブだからなおさら。

撮影は楽しいとは限らないけど、
少なくとも旅は楽しかったと思っています。
つまらない旅なんてまっぴらごめんだ。

楽しかったかどうかは気の持ちようなのだと思います。
気持ちなんて移ろうものだし。
楽しいの基準は自分で決めるものだし。
記憶は自分に都合のいいように改変されるものだし。

とりあえず、
撮影に来てるのはもちろんそうだけど、
それ以上にアジアを半年も旅しているっていう奇跡的に幸運な状況を楽しみたいなと思いました。
10カ国目にして、笑

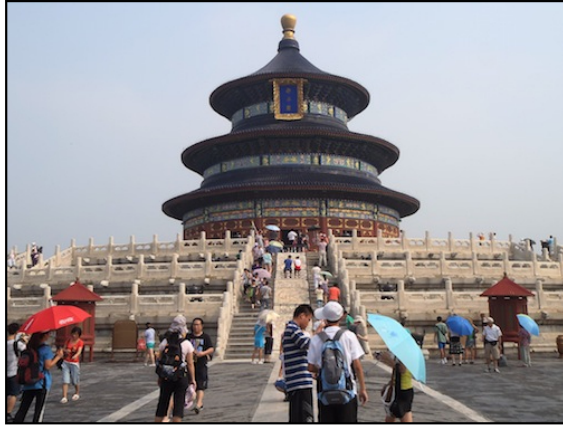
僕が来た人間ではないのよ、そあくらいの気持ちはないよ撮影も好きない気がしま

……

考え方がガキですか？
そうかもしれません。
最高の褒め言葉です、えへへ。

スクーリング前なので思考が現実逃避気味なんです。あは。

それじゃ北京編のブログいってみよー。



天壇公園

圓丘・皇穹宇・祈年殿などの見所があるのですが、そっちより公園の敷地内で思いつきの時間を過ごしている人々を見ている方がおもしろいです。

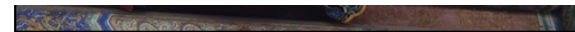
あー、中国だなあ、って思うこと間違いないです。



木樨石

みんなこの石の上に乗って記念撮影をしました。
ここで出した声は反射するらしいです。
周りがガヤガヤしすぎて真相のほどはわかりませんでした。





雍和宮

チベット仏教の寺院です。
中国の王朝は全部が漢民族の支配する王朝だったわけではありません。

長らく中国を支配した清朝は満州族の国です。
チベット仏教はその満州族が信仰していた宗教です。

なので漢字・チベット文字・満州文字で書かれています。



多くの参拝者が熱心に祈りを捧げていました。

今まで続いた王朝が倒れ、新たに文化も習慣も違う民族に支配される。
それって統治をする方にとってもされる方にとっても、とてつもない苦難だと思います。
様々なものが入り乱れた現代中国を見ても、複雑な歴史を感じます。



鳥の巣

北京オリンピックで有名なやつです。

へー、これが鳥の巣かー

へー

ふーん

・・・次行こ

感想は
テレビで見たそのまんま。
当たり前ですね。



水立方

水泳競技の行われた場所です。
魚の鱗の隣にあります。

へー、変な形

あー、なんかお腹いっぱい

・・・はい、これが鈴木という人間です。
反応の悪さは基本装備とお考えください。

あ、ラサリのブログは北京編の後に書きます。

post by 鈴木 和博 | 日時: 2011.08.02 | [バナーリンク](#) | [コメント\(6\)](#) | [トラックバック\(0\)](#) カテゴリ: [中国](#)